



光る知性 豊かな心 強い意志

南中生

長井市立長井南中学校

令和 4年 8月 31日

校長 赤間 幸生

全員の本気が創り上げた感動 2日間にわたる熱戦 大きな一つの和に

3年生117名の総合力に促されながら、コロナ禍の中、短期間・短時間の中で創った運動会。雨雲が無くなることを祈りながらの当日の朝。しかし、天は気まぐれ。そんな中でも、常日頃心がけてきた「メリハリ」を効かせた行動が大成功につながったものと確信しています。価値ある取組が、運動会スローガン『つむぐみんなでつくる協力の糸』の達成に結び付きました。総合優勝「赤組」 競技優勝「赤組」

取組賞「青組」 応援賞「青組」 数字として結果は出ましたが、戦い終わればノーサイド。閉会式後には、各組頭の発案で、お互いの健闘を讃え合い、コロナ終息を願い、3つの組のメイン応援を全員で行いました。曇天のグラウンドには、全員の盛り上がった声が響き渡り、精一杯やりきった成就感に満ちあふれた笑顔がいつまでも輝いていました。これまで頑張ってきた自分の「勝利」であり、集団としての「感動」であったと思います。



創立41年目、第40回の運動会は「全員の本気」が創り上げた感動的な2日間でした。

9月 見据える先は

「『君』っていうのは全ての東北の人だと思っているので、全ての人に栄冠が輝いたと僕は思っています。」

仙台育英高校野球部 須江 航監督が、高校野球大会歌『栄冠は君に輝く』について凱旋後に語った言葉。深紅の大優勝旗が「白河の関」を超え、熱戦の余韻がまだまだ冷めやらない。夏の甲子園は、仙台育英高校が東北初の頂点に立った。厚みのある打線が最後まで好調を維持し、好投手による継投で勝ち抜いた。

悲願の全国制覇を成し遂げた背景には、「日本一激しい」と自負するチーム内競争がある。須江 航監督は高校時代、ずっと控え選手だったとのこと。どうすれば試合に出られるか悩んだ経験を育成に生かし、ベンチから外れた選手も含め、一人一人の能力を数値化。具体的な目標を明示して励ましを重ね、選手たちも期待に応えた。団結力と総合力も培われた。

“誰にもチャンスはある”その心が反映された監督の優勝インタビューは、コロナ禍で“密な青春”を過ごせなかった全国の高校生へのエールとして、大きな反響を呼んだ。励まし合い、切磋琢磨する仲間がいれば強くなる。目標が大きければ、その分だけ大きな力が出せる。それが青春の素晴らしさ。

さあ、明日から9月。職場体験・修学旅行・長井めぐり・東北



吹奏楽コンクール・地区新人大会・合唱練習開始などなど、自分を、自分たちを、鍛え磨き上げた力を試すチャンスがやってくる。学級の仲間、学年の仲間、部活の仲間と支え合い、鍛え合い、勝利の最高峰へ挑み続けよう！

